



NPO法人 原発ゼロ市民共同 **かわさき発電所 ニュースレター**

第42号

でん太通信

den ta tu~sin

●発行 2018.2.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■3/11「原発ゼロへのカウントダウンinかわさき」

福島原発事故から7年が経つ3月11日（日）、中原平和公園を会場に『原発ゼロへのカウントダウンinかわさき』を開催します。

事故からちょうど一年が経った日に「自分たちが暮らす地元から発信しよう」と第1回目を開催し、今回で7回目となります。

公園の野外音楽堂には『原発ゼロ・自然エネルギー基本法案』を発表した、原発ゼロ自然エネルギー推進連盟 幹事の三上元さん（前湖西市市長）と、福島県北農民連からは服部崇さんがゲストで参加します。ブース会場には、今年も楽しい出店から、ためになる展示まで様々な市民グループが出展をします。原発ゼロを目指す人々が、一人ひとりの自分の思いを発信できる『広場』の様な集まりを作りたいと思い続けてきました。

それは、原発事故が壊したものが、人々の暮らしや営み、郷土の培ってきた歴史や文化だったからです。根を生やして暮らしていた土地から無理やり引っ剥がされ、仮設の住民となった男性は「俺たちはなんも悪いことはしてねえ」と声を震わせていました。

国会事故調が言う様に「歴代及び当時の政府、規制当局、そして東京電力が人々の命と社会を守るという責任感の欠如があった」のは誰の目にも明らかです。「人災」がいつの間にか「天災」にすり替えられ、ごまかしを飲み込んで原発の再稼働が進められてきました。

私たちの、簡単に誰かに騙されてしまう無知。自分が居なくなった後の未来への無関心。「もう二度とあんな事故はおきないだろう」というお気楽な想像力の欠如の上にしか、原発を稼働する事などできないのではないのでしょうか。

当NPO かわさき発電所も出店します

原発ゼロの声 川崎から! VOICE
私たちには関係ないこと...?!

2018 **3/11** 日 **第7回集会**

ゲスト 三上元 (前湖西市市長) 服部崇 (福島県北農民連)

会場 / 10:30(飲食ブースなど多数出展) 12:00文化行事(歌・踊り・和太鼓)など
本集会 / 13:00~(ゲスト発言など)
デモ出発 / 14:15~会場~武蔵小杉駅まで

中原平和公園 ※予約不要 参加費無料
どなたでも参加できます

主催:「原発ゼロへのカウントダウンinかわさき」実行委員会
川崎市川崎区砂子1-10-2ソシオ砂子ビル7F 川崎合同法律事務所 三島 TEL:044-211-0121



2017年3月12日
第6回集会の様相

小出裕章さんがゲストスピーカーとして登場

原発ゼロをめざす市民が、毎年1,000人以上集まる。

おいしい飲み、楽しいイベント、市民グループ大集合。

早春のお祭り広場に、ご家族おそろいでお出かけください。

2018年集会 賛同メッセージ募集

賛同メッセージは、集会の会場および公式サイトで公表します。

お名前・ペンネーム (公開されます。空欄でも可)

集会賛同メッセージ

FAX 044-330-0520 公式サイトからも登録できます。http://genpatsu-zero.com/

民主主義という舞台の主演は私たちです。主演がしっかりしないとまた、同じ過ちを繰り返してしまいます。

事故後すぐに産まれてきた僕の娘も、今年から小学生に上がります。時の経過を感じると同時に、つい最近「デブリ（溶け落ちた核燃料）発見か？」という報道がされていたことを考えると、事故による被害の継続性に「なんて無謀な発電方法よ」と感じます。僕たちは、選択に失敗しました。取り返せない汚染を土地に残しました。しかし、失敗し続けるわけにはいかないんです。未来を生きる人たちのために、今すぐに原発ゼロへのカウントダウンを始めましょう。

原発ゼロへのカウントダウンinかわさき実行委員会
前事務局長 丸山 健二（当NPO 法人 理事）



■大都市かわさきにこそ 再エネ推進条例を

福島第1原発事故から7年、今だ6万人近い人々が故郷を追われ、農畜産業の方々も苦しい状況に置かれています。原子力災害の影響の深刻さは計り知れず、多くの人々が“計画的に原子力への依存度を低減させ、将来的には原発の利用をゼロにすべき”と考えています*。しかし2017年夏から始まったエネルギー基本計画の見直し議論（経済産業省「基本政策分科会」で審議）では、現在の基本計画にうたわれた「2030年の原子力割合22%をどう達成するか」がメインテーマの一つとなると予想され、「老朽原発の再稼働ルール緩和」や「新規炉建設の促進」等が検討されると報じられています。これは多くの国民の考えに反するものです。

大震災後、全国各地で省エネ・再生可能エネルギー推進を基本とするエネルギー政策を条例で定め、国のエネルギー政策と一線を違える自治体が増えています。その多くは地方小規模都市ですが、私たちはエネルギー大消費地である都市こそ、その責任において原発への依存度を減らし、安全で環境負荷の低いエネルギー政策を追究する基本姿勢を率先して宣言すべきと考えます。

150万都市川崎で再エネ条例を制定するため、当プロジェクトでは今後約1年間で3万筆（条例の直接請求が可能な署名数、2019年3月まで）を目標とした署名活動展開を計画しています。署名活動を広く一般市民に呼び掛けるためには、まとまった額の資金が必要です。そこで公益財団法人かながわ生き活き市民基金の助成プログラムを活用して多くの人々へ共感の輪を広げていきたいと願っています。

寄付の受付期限が 2018年3月20日 に迫っています。皆さまのご協力を心からお待ちしています。



*日本原子力文化財団（原子力利用に関する世論調査、2016年）15～79歳の国民の約5割、原子力発電は「しばらく利用するが徐々に廃止していくべきだ」
日経新聞（世論調査、2016年2月）「原発再稼働、6割が反対」
共同通信社、毎日新聞社、朝日新聞社（いずれも2016年）でも「約6割が反対」

◀詳しくはこちらから（川崎地域エネルギー市民協議会 ホームページ）



【寄付の方法】

①かながわ生き生き市民基金「エラベル」ホームページ ▼

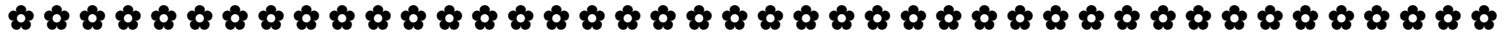
http://lively-fund.sakura.ne.jp/dona_eraberu.html にアクセスし、寄付手続きをしてください。

②インターネットからの寄付手続きが難しい場合はご連絡ください。

寄付申込書をお届けします。Tel/ Fax : (044)722-6766 (高橋)

E-mail : kawasakisaiene@gmail.com

川崎地域エネルギー市民協議会 再エネ条例制定プロジェクト 鳥海 幸恵



■2/18 発電所3号機「通電式」

かわさき発電所3号機「通電式」を開催いたします。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

■見学会（雨天決行）

○2月18日（日）12時～12時半

○場所：「うしおだ診療所」屋上

○集合場所：「うしおだ診療所」正面玄関

横浜市鶴見区本町通 1-16-1

JR【鶴見駅】東口 徒歩 10分

JR【国道駅】徒歩 7分

○道が分からない人は 11時半に

JR【鶴見駅】東口 改札口前

■通電式

○2月18日（日）14時～16時半

○場所：公益財団法人横浜勤労者福祉協会

「汐田総合病院」会議室

横浜市鶴見区矢向 1-6-20

JR 南武線【尻手駅】

改札を出て左に徒歩 10分

JR 川崎駅西口 臨港バス

川 51・53・57 系統

「汐田総合病院前」下車すぐ

NPO法人
原発ゼロ市民共同

かわさき発電所

3号機発電所通電式

2018年2月18日（日曜日）

○発電所見学会 12:00～12:30（うしおだ診療所 屋上）
○通電式 14:00～16:30（汐田総合病院 会議室）

記念講演：再生可能エネルギーで地域興し
佐藤彌右衛門さん（会津電力株式会社代表取締役社長）

1951年喜多方市生まれ。東京農業大学短期醸造卒業後
帰郷（資）大和川酒造店入社。
2005年代表社員就任 九代目佐藤彌右衛門に改名。プ
ロジェクト会津（株）代表取締役社長。しいたてまていの
会共同代表。2013年8月会津電力（株）設立。代表取締役
社長に就任。全国ご当地エネルギー協会代表理事。飯
館電力（株）代表取締役副社長。一般財団法人ふくしま
自然エネルギー基金代表理事。

映画「日本と再生」ダイジェスト版も上映

うしおだ診療所屋上に完成した発電所

主催：NPO法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所
共催：公益財団法人 横浜勤労者福祉協会
入場無料 連絡先 川崎合同法律事務所 川岸(044-211-0121)



■「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」は実現すべし！

去る1月10日に、小泉元首相、細川元首相が顧問の原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（略称「原自連」）が「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」を発表しました。これは、「共同発電所」の理事の私にとって、大歓迎のものでした。それは、その内容が私たちの「ミッション」とまさに重なっていたからです。

発表された「基本法案」の主要な項目を見ると、

- ① 運転中の原発は直ちに停止する。
- ② 停止中の原発は再稼働させない。
- ③ 運転を停止した原発は、具体的な廃炉計画を策定する。
- ④ 原発の新增設は認めない。
- ⑤ 使用済み核燃料の最終処分に関し、確実かつ安全な計画を国の責任で策定し、国民の力も協働して実施する。

というものです。全て両手を挙げて賛成というところでしょう。さらに、

- ① 省エネルギーを徹底させる。
- ② 太陽光、風力などの自然エネルギーを最大限に且つ速やかに導入する。
- ③ 地域再生のために、各地域におけるエネルギーの地産地消による分散型エネルギー社会の形成を推進する。
- ④ 50年までには自然エネルギーの電力比率目標を100%とする。

という各項目も、私たちの想いをそのまま法案にしてくれたと言ってもいい程ではないでしょうか。

私は小泉元首相の脱原発の発言は知っていましたが、彼が、全政党一致でいくのか、二大政党でいくのか、疑問がありました。さらに、第一次安倍政権の下では実現が難しいと解った時、彼には「全野党共闘」という方向は無い様だったからです（詳しくは『小泉純一郎「原発ゼロ」』毎日新聞社 90P など参照）。

ところが、今回は、安倍政権以外の政党との「共闘」は明確です。それは、小泉氏が、安倍政権で原発ゼロを進めるのは難しいが、近い将来必ず原発ゼロは国民の多数の支持を得て実現する（「朝日」1.11 付）と語り、立憲民主党や共産党など野党と連携して行く様だからです。これは以前にはなかったことで、市民、市民連合が公然と声を上げ、野党の共闘が成立するようになったことが背景にあると私は考えます。

そして、「原自連」会長の吉原毅さん（城南信用金庫顧問）は4年前の「原発ゼロへのカウントダウン」集会のゲストでした。理事の河合弘之さん（弁護士）は脱原発映画「日本と再生」で有名な監督で、海渡雄一さんは浜岡原発訴訟に関して私たちがいろいろ学んだ弁護士です。小泉氏らの動きは、こういう筋の通った人たちに支えられているのです。したがって、「原発ゼロ法案」の内容、実現の方向を広く議論していけば、必ず国民の多数を獲得できると思います。

理事 田辺 勝義

【編集後記】

2月から3月にかけてイベントが目白押しです。「再エネ条例プロジェクト」は、かわさき生活クラブ生協11組織の各大会でアピールさせてもらうことになったので、プロジェクトメンバーの私も出向きます。カウントダウンでもアピールします。
★3/11 チラシ配布お手伝い大募集！（加藤伸子）

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090—7948—6189（川岸）

でん太通信は毎月15日に発行しています。

